

⑧ HIV
(ヒト免疫不全ウイルス)

HIVはAIDS(後天性免疫不全症候群)の原因ウイルスで、直径100nm程度RNAウイルスです。感染から初発症状が出現するまでは2~4週間、数週間で診断可能な抗体が出現してきます。感染から免疫低下によるエイズ発症までの潜伏期間は平均10年程度とされています。感染経路は、性的接触、母子感染、静注薬物使用による感染が主です。厚生労働省エイズ動向委員会の平成27年発生動向報告によると、平成27年に報告されたHIV感染者数は1006件、AIDS患者数は428件でした。このうち性的接触による感染が88%で、母子感染は平成25年、26年に引き続き1件の報告がありました。生殖年齢にある39歳以下のHIV感染女性は国内に数百人存在することから、妊娠初期からの検査体制が必要です。

日本では妊娠初期スクリーニング検査として、ほとんどの医療機関でHIVスクリーニング検査が行われています。スクリーニング検査で陽性反応の場合、HIV-1ウェスタンブロット法とHIV-1PCR法の両者による確認検査が必要となります。確認検査でHIV感染の疑いありと診断された場合は、地域のエイズ拠点病院での妊娠・分娩管理が必要となります。妊娠中からの抗HIV薬の投与や、選択的帝王切開による分娩方法で母子感染率は減少するとされており、さらに人工乳や新生児への抗HIV薬投与など出生後の予防的対応が母子感染予防に有効とされています。